



週間情報



No.0638

発行日 令和6年9月24日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-3234-1321

消防本部の動き

訓練

◆ 3機関で合同山岳救助訓練を実施

筑西広域市町村圏事務組合消防本部（茨城）

筑西広域市町村圏事務組合消防本部では、令和6年9月4日（水）、5日（木）の2日間、桜川市内の山間部において、石岡市消防本部、茨城県防災航空隊と合同山岳救助訓練を実施しました。

この訓練は、管轄区域の境界を越えた相互応援協定に基づき、関係機関との連携強化を図ることを目的として、毎年実施しているものです。

当日は、訓練を通じて、各隊の技術を共有し士気の高揚を図ることができたほか、顔の見える関係をさらに深めることができました。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

◆ 第8回救急技術発表会を実施

諏訪広域消防本部（長野）

諏訪広域消防本部では、令和6年9月9日（月）、救急医療週間の一環として、地域メディカルコントロール協議会と共催で、第8回救急技術発表会を実施しました。

この発表会は、119番通報時における、通信指令員の的確な情報聴取と迅速な状況把握の能力向上と、救急隊員の病態に応じた迅速な観察と関係者への接遇能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、同協議会に在籍している医師をお招きし、医学的見地からの助言をいただき、通信指令員と救急隊員の連携強化と能力向上を図ることができました。

今後も、傷病者や関係者に配慮した活動を行い、地域住民の負託に応えてまいります。



【発表会の様子】

◆ 茨城県防災航空隊と合同訓練を実施

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部（茨城）

常総地方広域市町村圏事務組合消防本部では、平成27年9月関東・東北豪雨により、常総市の鬼怒川が決壊し、人命・家屋に甚大な被害が発生したことを踏まえ、令和6年9月10日（火）、11日（水）の2日間、茨城県防災航空隊と合同訓練を実施しました。

当日は、マーシャル訓練、状況調査訓練、消防給水による上空からの消火訓練を実施したほか、ドクターヘリ補完的運航に伴う機内収容要領の確認を行い、航空隊と地上部隊が相互に理解を深め活動時の認識を共有しました。

今後も訓練を継続し、激甚化する災害に対して、安全・確実・迅速に対応するため、同航空隊との連携を強化し災害対応力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

研 修

◆ 人材育成特別講演会を開催

西胆振行政事務組合消防本部（北海道）

西胆振行政事務組合消防本部では、令和6年9月3日（火）、当消防本部の中・小隊長を対象に人材育成特別講演会を開催しました。

当日は、約70人の中・小隊長が参加し、総務省消防庁消防大学校客員教授の山崎洋史先生を講師としてお招きし、中・小隊長として求められる指導要領と教育技法についてご講義いただきました。

当消防本部では、人材育成が喫緊の課題となっており、参加者からは「今後の部下指導に生かせる内容が聞けて良かったです。」などの声を多く聞くことができました。

今後も、あらゆる災害に迅速・確実に対応するため、人材育成に努めてまいります。



【講演会の様子】

◆ 周産期研修会を開催

真庭市消防本部（岡山）

真庭市消防本部では、令和6年9月3日（火）、周産期研修会を開催しました。

当日は、岡山大学病院の牧尉太先生を講師としてお招きし、周産期についてご講義いただいた後、周産期緊急搬送補助システム「iPicss（アイピクス）」の使用体験や分娩シミュレーターを活用した分娩介助の実技訓練を実施しました。

当消防本部は、分娩介助を経験する事案が少なく、不安をもっている職員も多くいましたが、参加した職員から「分娩に対する不安がなくなった。」、「iPicss（アイピクス）」を使用することにより、リアルタイムで医師の助言が受けられ安心。」などの感想を聞くことができました。今後も、このような研修会を継続し、不安なく出産を行える地域を目指してまいります。



【研修会の様子】



【実技訓練の様子】

◆ 火災調査員研修会を開催

日光市消防本部（栃木）

日光市消防本部では、令和6年9月3日（火）、4日（水）の2日間、当消防本部の火災原因調査の中心的役割を担う火災調査員を対象に火災調査員研修会を開催しました。

当日は、東京消防庁の職員を講師としてお招きし、火災原因調査に必要な基礎知識のほか、書類作成の要点や増加傾向にある電気火災の鑑識要領についてご講義いただきました。

今後も、火災原因調査の質を高めて防火啓発につなげていくことで、類似火災防止の体制強化に努めてまいります。



【研修会の様子】



【研修会後の記念撮影】

◆ 給油取扱所施設研修会を実施

尾三消防本部（愛知）

尾三消防本部では、令和6年9月6日（金）、給油取扱所施設研修会を実施しました。

この研修会は、近年、国内で石油製品からの転換を図るなど、脱炭素社会の実現に向け危険物施設の減少が見込まれるなか、管内にガソリンスタンドが新設されることから、予防実務能力の向上につなげることを目的として実施したものです。

当日は、株式会社タツノ中部支店の職員を講師としてお招きし、給油取扱所の設置や保安業務上の注意点などについてご講義いただきました。

今後も、保安管理指導の場において、同研修で学んだことを給油取扱所従事者に周知し、危険物施設の事故防止に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「救急救命士による救急技術研修会」を実施

紀北地域救急業務高度化推進協議会（和歌山）

紀北地域救急業務高度化推進協議会（紀北地域で構成する9消防本部）では、令和6年9月5日（木）、6日（金）の2日間、「救急救命士による救急技術研修会」を実施しました。

静脈路確保は、救急現場や救急車内での実施は大変難しく、また現場で実施する機会も少ないことから、「静脈路確保の技術を向上させるにはどうすれば良いか。」が課題でした。

当日は、近畿大学生物理工学部医用工学科の西手氏を講師としてお招きし、人肌の感触に似たリアルなパッドを使用して、静脈路確保の基本手技と適切な対処方法についてご指導いただきました。

今後も、救急活動の資質とさらなる救命率の向上を図り、救急業務に対する市民の期待と負託に応えてまいります。



【研修会の様子】

◆ 救急研修会を実施

さつま町消防本部（鹿児島）

さつま町消防本部では、令和6年9月9日（月）、分娩をテーマとした救急研修会を実施しました。

この研修会は、管内に産婦人科に対応できる医療機関がないことから、周産期に起因する救急事案の対応能力の向上を目的として実施したものです。

当日は、アドバンス助産師など3人を講師としてお招きし、分娩についてご講義いただいたほか、分娩シミュレーターを活用して分娩介助の要領について指導いただき、大変有意義な研修会となりました。

今後も、尊い命を守るため、知識や技術の習得に努めてまいります。



【講義の様子】



【分娩介助の様子】

その他

◆ 消防協力者に消防総監感謝状を贈呈

東京消防庁（東京）

東京消防庁玉川消防署では、令和6年9月2日（月）、消防協力者に対して、消防総監感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年5月22日（水）、交通事故で心肺停止となった男性を、消防協力者が発見し、周囲の人に119番通報とAEDの搬送を依頼した後、感染防止のために手袋をして消防隊が到着するまで胸骨圧迫を実施したものです。

表彰式は、消防協力者が勤務する都立青鳥特別支援学校の始業式において、生徒たちが見ているなかで実施しました。

消防協力者から「日頃の応急救護訓練や防災訓練の重要性を認識し、今後の防災教育へつなげていきたい。」と自らの体験を生徒たちに伝えていました。

消防協力者の迅速かつ適切な勇気ある行動により、尊い命が救われました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

有田川町消防本部（和歌山）

有田川町消防本部では、令和6年9月9日（月）、2事案の消防協力者8人（4人欠席）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

1事案目は、同年8月10日（土）、管内の有田川において、遊泳中に心肺停止となった女児に対して、付近にいた消防協力者7人が協力し、的確な胸骨圧迫と迅速な119番通報を行ったものです。

2事案目は、同月13日（火）、同川において、遊泳中に心肺停止となった青年に対して、付近にいた消防協力者が的確な胸骨圧迫と迅速な119番通報を行ったものです。

女児と青年は、救急隊到着時には、呼吸と心拍が再開しており、病院で治療後に社会復帰しました。

消防協力者8人の勇気ある行動により、尊い命が救われました。



【表彰式の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 人命救助活動功労者に表彰状を贈呈

天草広域連合消防本部（熊本）

天草広域連合消防本部では、令和6年9月9日（月）、人命救助活動功労者の3人に対して、消防長から表彰状を贈呈しました。

本事案は、同年7月、上天草市の海水浴場において、家族で遊泳中の父親と男児が溺れ水面に浮かんでいるのをその場に居合わせた同功労者の3人が発見し、協力して親子を陸に救出した後、心肺停止となった父親に対して胸骨圧迫を実施したものです。

父親は、救急隊が現場到着した時には、意識が回復しました。

同功労者3人の積極的での的確な勇気ある行動で、発見・通報・救助・心肺蘇生の救命リレーにより、尊い命が救われました。



【表彰状贈呈後の記念撮影】

◆ 消防協力者に感謝状を贈呈

南渡島消防事務組合消防本部（北海道）

南渡島消防事務組合消防本部では、令和6年9月10日（火）、消防協力者の2人に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年7月29日（月）、北斗市内で発生した建物火災において、隣接する工場に勤務していた消防協力者の2人が協力し、煙が充満する屋内へ進入して火元を発見し、消火器2本を使用して初期消火を行ったものです。

消防協力者の2人により、焼損被害を最小限にとどめるとともに、延焼拡大防止に大いに貢献しました。

消防協力者の2人は、「一生に一度の出来事。まさかと思ったが2人だったので落ち着いて消火できた。」「火元の確認や、消火器を持って来るなど連携が取れた。大事に至らなくて本当に良かった。」と述べていました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 「防災フェスタ in 武庫」を開催

尼崎市消防局（兵庫）

尼崎市消防局では、令和6年8月24日（土）、尼崎南ライオンズクラブにご協力いただき、管内の住民を対象に「防災フェスタ in 武庫」を開催しました。

このイベントは、地域住民に消防行政への理解を深めていただくことを目的として開催したものです。

当日は、多くの子ども、保護者、高齢者の方々が来場し、放水体験、水消火器体験、心肺蘇生法体験、ミニ消防車記念撮影、消防車・救急車の展示などを行ったほか、高齢者の方に、住宅防火や予防救急・室内閉じ込め救助事案に関するパンフレットを配布しました。

また、消防団PRコーナーを設け、消防団への入団促進活動を行いました。

今後も、地域住民をはじめ多くの方々に、消防行政への理解と協力をいただけるよう努めてまいります。



【放水体験の様子】



【心肺蘇生法体験の様子】

◆ 消防団と合同で救急の日啓発イベントを実施

鳥取県東部広域行政管理組合消防局（鳥取）

鳥取県東部広域行政管理組合消防局では、令和6年9月1日（日）、管内のイオンモール鳥取北店において、鳥取市消防団と合同で、救急の日啓発イベントを実施しました。

このイベントは、来場者に対して救急に関する正しい認識や知識を周知し、救命率の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、胸骨圧迫体験、救急車乗車体験、子ども救急隊員なりきり体験などを行ったほか、救急車の適正利用について広報を実施しました。

また、来場者に応急手当のパンフレットを配布し、救急安心センター事業「#7119」、子ども医療電話相談事業「#8000」について広報しました。

今後も、バイスタンダーの普及と救急車の適正利用について広報を継続し、救急に関する普及啓発活動に努めてまいります。



【胸骨圧迫体験の様子】



【救急車乗車体験の様子】

◆ 「救急フェア2024」を開催

橋本市消防本部（和歌山）

橋本市消防本部では、令和6年9月2日（月）、橋本市保健福祉センターにおいて、「救急フェア2024」を開催しました。

当日は、昨年よりも多くの方にご参加いただき、胸骨圧迫チャレンジ（心肺蘇生法・AED取り扱い）、消防士コスチューム試着体験、救急車・キッズ救急車の乗車体験などを実施し、笑顔で楽しみながらも真剣に体験している姿を見ることができました。

消防士コスチューム試着体験では、救急隊の感染防止衣（救急隊のコスチューム）が新たに加わったほか、救急に関する豆知識を取り入れた救急クイズなどを新たに実施しました。

今後も、救急フェアなどの各種イベントを継続し、当市における救命の連鎖を促進して、救命率の向上につなげてまいります。



【消防士コスチューム試着体験の様子】



【胸骨圧迫チャレンジの様子】

◆ 保育士を対象に「窒息・アナフィラキシー対応救命講習会」を開催

萩市消防本部（山口）

萩市消防本部では、令和6年9月7日（土）、救急の日と救急医療週間を迎えるに当たり、市内の保育所で勤務する保育士を対象に「窒息・アナフィラキシー対応救命講習会」を開催しました。

この講習会は、保育士が子どもたちの安全を守るために必要不可欠な知識・技術の習得を目的として開催したものです。

当日は、24人の保育士が参加し、応急手当指導員である女性消防団員4人と救急救命士が協力して、窒息、アナフィラキシー対応について講義した後、実技とシナリオ訓練を行いました。

シナリオ訓練では、「観察・判断・エピペンを打つことができる」をテーマとして、救急救命士が園児役となりシミュレーション訓練を実施しました。

今後も、各種講習会などを継続し、地域一体となって救急体制の充実強化に努めてまいります。



【シナリオ訓練の様子】



【講習会後の記念撮影】

◆ 「救急フェア2024」を実施

松山市消防局（愛媛）

松山市消防局では、令和6年9月7日（土）、松山圏域の各消防本部と連携し、「救急フェア2024」を実施しました。

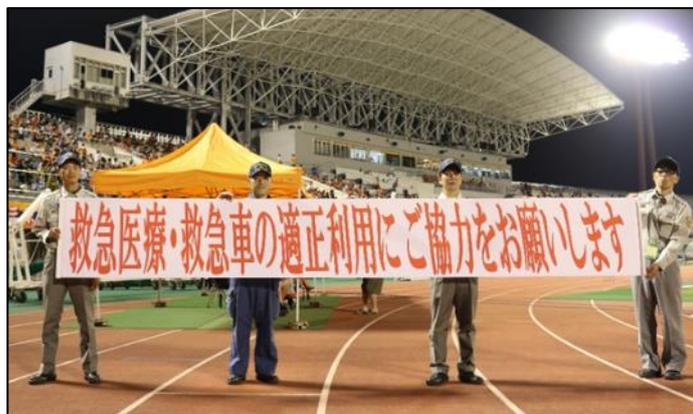
当日は、Jリーグの愛媛FCとタイアップし、試合観戦に訪れた来場者に対して応急手当講習を行ったほか、えひめ救急電話相談「#7119」の利用方法を説明しました。

また、ピッチ上で消防団員による散水や大型ビジョンで「#7119」を広報するなど、救急医療や救急車の適正利用について啓発しました。

今後も、このような啓発活動を広く展開してまいります。



【大型ビジョンの様子】



【啓発活動の様子】

◆ 「救急フェア2024」を開催

人吉下球磨消防組合消防本部（熊本）

人吉下球磨消防組合消防本部では、令和6年9月7日（土）、「救急の日」を含む「救急医療週間」を迎えるに当たり、人吉市医師会と共催で、「救急フェア2024」を開催しました。

これは、地域住民に救急医療と救急業務への理解と認識を深めていただくとともに、応急手当の普及啓発を行うことを目的として、平成7年から開催しているもので、今年で30年の節目を迎えました。

当日は、幼年消防クラブ員と少年消防クラブ員を含む地域住民が約800人参加し、はしご車体験、煙体験、放水体験を行いました。

また、応急手当コーナー、健康相談コーナーなどを設け、現場の最前線で働く消防隊員や救急隊員が地域住民と身近に接することができ、来場者が熱心に取り組む姿を見ることができました。

今後も、イベントを継続し、地域住民が楽しみながらも消防行政について理解していただくとともに、同クラブ員の育成と防火・防災意識の向上に努めてまいります。



【イベントの様子】



【応急手当コーナーの様子】

◆ 救急フェアを実施

千葉市消防局（千葉）

千葉市消防局では、令和6年9月1日（日）、8日（日）の2日間、イオンモール幕張新都心とZOZOマリンスタジアムにおいて、救急フェアを実施しました。

両会場で、千葉市応急手当ジュニアインストラクターの指導による心肺蘇生法体験を行ったほか、参加した子どもたちに、カプセルトイを用いて、オリジナル缶バッジなどを配布し、喜ぶ姿を見ることができました。

また、8日にはZOZOマリンスタジアムの屋外ステージ上において、市民参加型の救急救命パフォーマンスを披露し、多くの来場者に対して応急手当の普及啓発活動を実施しました。

今後も、関係団体と連携し、子どもから高齢の方までが命について考え、「大切な命を守るため、自分ができること」を知るきっかけになるよう、応急手当の普及啓発に努めてまいります。



【心肺蘇生法体験の様子】



【救急救命パフォーマンスの様子】

◆ 「救急の日ファミリー層向け救急活動体験イベント」を開催

御殿場市・小山町広域行政組合消防本部（静岡）

御殿場市・小山町広域行政組合消防本部では、令和6年9月8日（日）、「救急の日ファミリー層向け救急活動体験イベント」を開催しました。

当日は、小学生以下の親子など約700人がスタンプラリー方式で、救急車の乗車体験や119番通報体験などを行い、本人の写真が入った記念カード「ちびっこ救急隊長出動証明書」を手渡しました。

今後も、イベントなどを通じて、救急業務への理解や応急手当の普及啓発に努めてまいります。



【救急車乗車体験の様子】



【119番通報体験の様子】

◆ 救急フェアを開催

加古川市消防本部（兵庫）

加古川市消防本部では、令和6年9月8日（日）、管内の大型商業施設において、救急フェアを開催しました。

これは、住民に救急車の適正利用と応急手当について理解を深めてもらうことを目的として開催したものです。

当日は、屋内において、AEDトレーナーを使用した胸骨圧迫体験、救急資器材の展示、救急フェアオリジナル缶バッジの作成などを行ったほか、屋外において、救急車やドクターカーの展示や乗車体験などを行いました。

イベントを通じて、子どもから大人まで多くの方々に楽しみながらも学んでいただき、救急業務や救急車の適正利用について効果的な広報を実施することができました。



【イベントの様子】



【乗車体験の様子】

◆ 「第9回西条市応急手当競技大会」を開催

西条市消防本部（愛媛）

西条市消防本部では、令和6年9月8日（日）、「救急医療週間」の一環として、市内の高校生を対象に「第9回西条市応急手当競技大会」を開催しました。

この大会は、学校での突然死を防ぐため、応急手当の必要性を周知し、状況に応じた的確な判断力と機敏な行動力を身に付けていただき、対応能力の強化を目的として、県内で初めて開催したものです。

当日は、夏休み期間中に訓練を重ねてきた生徒が、3人1組の8チームで競技を行い、応急手当に関する知識と技術の向上を図ることができました。

参加した生徒たちから、「いざという時には自信を持って助けたいです。」という声を聞くことができました



【大会の様子】



【大会後の記念撮影】

◆ 「いきいき運動・健康フェスタ」において消防広報を実施

粕屋北部消防本部（福岡）

粕屋北部消防本部では、令和6年9月7日（土）、8日（日）の2日間、救急の日を迎えるに当たり、新宮町が主催する「いきいき運動・健康フェスタ」に参加し、消防広報を実施しました。

当日は、約600人の住民が来場し、胸骨圧迫体験、AED取り扱い体験を行ったほか、当消防本部が制作した心肺蘇生法のYouTube動画の二次元コードをマスクに貼り付け来場者に配布しました。

多くの方が動画を視聴し、バイスタンダーの大切さと心肺蘇生法の知識を深めていただけることを期待しています。

また、古賀市の大型ショッピング店舗において、救急車の適正利用について街頭広報を実施しました。

今後も、消防広報を通じて、住民の方々の声に耳を傾け、救急現場や災害現場において誠心誠意応えてまいります。



【胸骨圧迫体験の様子】



【YouTube動画の二次元コード】

◆ 一日消防長を委嘱し消防広報活動を実施

羽島市消防本部（岐阜）

羽島市消防本部では、令和6年9月10日（火）、羽島市出身でパリ2024オリンピックのアーチェリー日本代表である齊藤史弥選手を一日消防長に委嘱し、消防広報活動を実施しました。

当日は、齊藤選手から「地域住民の皆さまのため、火災予防や救急車の適正利用について呼びかけを行ってまいります。」とあいさつをいただいた後、市役所や市内の商業施設を訪れた方々にリーフレットを配布し、広報していただきました。



【一日消防長委嘱後の記念撮影】



【広報活動の様子】

◆ オンライン救命講習（救命入門コース）を実施

大分市消防局（大分）

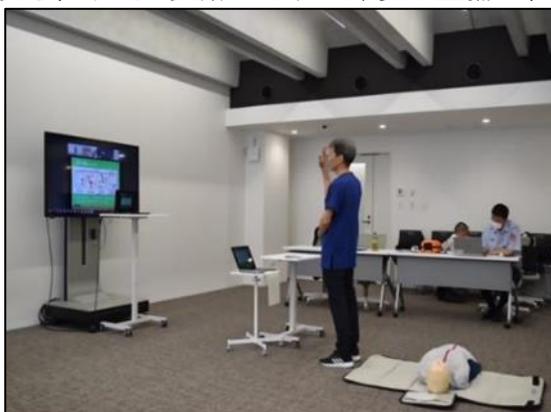
大分市消防局では、令和6年9月10日（火）、救急医療週間の一環として、市内の小学6年生を対象にオンライン救命講習（救命入門コース）を実施しました。

これは、幼少期から応急手当に関する意識を醸成し、バイスタンダー育成の基礎を作るとともに、対面での講習が困難となった場合に備えるため、オンライン講習の試験を行うことを目的として実施したものです。

当日は、32人が参加し、救急医を講師としてお招きし、救命の連鎖やAEDについてご講義いただいたほか、ペットボトル、胸骨圧迫訓練シート、フィードバック機能付きの訓練人形を活用して、深さや速さなどを確認しながら胸骨圧迫を実施しました。

また、訓練人形に組み込まれたCPRゲームを行い、参加した児童から「楽しく学べた。」などの声を聞くことができました。

今後も、市民が受講しやすい環境を整備し、バイスタンダーの育成に努めてまいります。



【オンライン救命講習の様子】

◆ 令和6年度「住警器等配布モデル事業」贈呈式を実施

志太広域事務組合志太消防本部（静岡）

志太広域事務組合志太消防本部では、令和6年9月11日（水）、令和6年度「住警器等配布モデル事業」贈呈式を実施しました。

これは、一般社団法人全国消防機器協会社会貢献委員会が主催する「住警器等配布モデル事業」への応募について各町内会に希望を募り、モデル地区に決定した町内会の会長に対して、住宅用火災警報器100個、住宅用消火器25本、防災毛布25枚を贈呈したものです。

贈呈式では、消防長から町内会会長へ贈呈書を交付するとともに、より一層の住宅防火対策の推進を懇請しました。

今後も、火災を出さない地域づくりを地域住民と協力して築いてまいります。



【贈呈の様子】



【贈呈式後の記念撮影】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 消防用設備等の点検要領の一部改正について（通知）

（消防予第412号、令和6年9月10日）

消防庁予防課長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

消防用設備等の点検については、「消防用設備等の点検要領の全部改正について」（平成14年6月11日付け消防予第172号。以下「点検要領」という。）により運用いただいているところですが、今般、点検要領の一部を下記のとおり改正しましたので通知します。

一以下省略一

○ 全文は、消防庁ホームページ

<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/20240910tennkennyouryoukaisei.pdf> に掲載されています。

消防庁予防課設備係
担 当：西田、山崎
T E L：03-5253-7523

◆ 「キュービクル式リチウムイオン蓄電池設備の貯蔵に係る運用について」の一部改正について

(消防危第273号、令和6年9月17日)

消防庁危険物保安室長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

「リチウムイオン蓄電池に係る危険物規制に関する検討会」の結果を踏まえ、「キュービクル式リチウムイオン蓄電池設備の貯蔵に係る運用について」(令和4年4月27日付け消防危第96号)の一部を別紙のとおり改正することとしたので通知します。(別紙省略)
—以下省略—

- 全文は、消防長ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/240917_kiho273.pdf) に掲載されています。

消防庁危険物保安室 担当：三宅、渥美、小澤、宇野 Tel：03-5253-7524 Mail： fdma.hoanshitsu@soumu.go.jp

◆ 「リチウムイオン蓄電池の貯蔵及び取扱いに係る運用について」及び「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令等の運用について」の一部訂正について

(事務連絡、令和6年9月17日)

消防庁危険物保安室から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

「リチウムイオン蓄電池の貯蔵及び取扱いに係る運用について」(平成23年12月27日付け消防危第303号。以下「303号通知」という。)及び「危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令等の運用について」(令和5年9月19日付け消防危第251号。以下「251号通知」という。)について、一部誤記がありましたので下記のとおり訂正します。

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/240917_kiho_jimul.pdf) に掲載されています。

消防庁危険物保安室 担当：三宅、渥美、小澤、宇野 Tel：03-5253-7524 Mail： fdma.hoanshitsu@soumu.go.jp

報道発表

◆ **令和6年防災功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）**

（令和6年9月12日、消防庁）

令和6年防災功労者内閣総理大臣表彰（消防関係）受賞者は、次のとおりです。

防災功労者内閣総理大臣表彰受賞者 12団体

（受賞者名等は、別紙の受賞者名簿に記載されています。）（別紙省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/240912_soumu_1.pdf) に掲載されています。

連絡先

消防庁総務課

山澤政策評価広報官・檀田係長・池本事務官

TEL 03(5253)7521 内線 42177

Mail fdma-soumukahyoushou_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際は、「@」に変更してください。

情報提供

◆ 令和6年度「屋外タンク実務担当者講習会」開催案内

危険物保安技術協会

昭和52年（1977年）の消防法改正により、特定屋外タンク貯蔵所の基準が大幅に整備され、開放点検などが義務付けられ既に40年以上が経過しました。この間、地震災害や設備の経年劣化などが要因となり、火災、爆発、流出などの事故が何度となく発生しましたが、その都度、これらの事故を教訓とし屋外貯蔵タンクの技術基準が見直され、安全対策などの整備が進められてきました。

また、近年、高度経済成長期に建設された屋外タンク貯蔵所などは、老朽化が進み維持管理のあり方が課題となっており、さらにソフト面では、保安の確保や技術の伝承が重要な課題となっております。

本講習会では、これらの課題を踏まえ、技術基準の重要性と安全を重視した維持管理のあり方に焦点を当て、事例などに基づいた実務的な要素を取り入れ、適切な審査などに関する知識・技術の習得を目的とし、下記のとおり開催いたします。

本年度は、東京・大阪・北九州にて集合講習会を開催いたします。

なお、WEB配信は予定しておりませんので、各会場にてご受講をお願いいたします。

記

1 主催

危険物保安技術協会

2 協賛

全国消防長会、石油連盟、石油化学工業協会、日本非破壊検査工業会

3 開催日、受講期間および場所など

(1) 東京会場

ア 日時：令和6年11月22日（金）10時00分から16時30分まで

イ 場所：科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区北の丸公園2番1号）
定員300人

(2) 大阪会場

ア 日時：令和6年12月2日（月）10時00分から16時30分まで

イ 場所：大阪科学技術センター 中ホール（大阪市西区靱本町1丁目8番4号）
定員100人

(3) 北九州会場

ア 日時：令和6年12月13日（金）10時00分から16時30分まで

イ 場所：毎日西部会館 9階ホール（北九州市小倉北区紺屋町13番1号）
定員150人

4 受講対象者

主に、屋外タンク貯蔵所を保有する事業所、タンクメーカー、非破壊検査会社および消防機関などの屋外タンク貯蔵所に係る業務に携わる方を対象としていますが、特に限定はいたしません。

5 受講料

15,400円（消費税10% 1,400円含む）

6 開催プログラム

内 容	講 師
(1) 屋外貯蔵タンクに係る基準の概要	危険物保安技術協会 タンク審査部
(2) 屋外貯蔵タンク許可申請時の必要書類とその注意点について	
(3) 屋外貯蔵タンクの浮き屋根の点検に係る技術援助について	

(4) 屋外貯蔵タンクの基礎・地盤の維持管理 ～技術基準適合の維持について～	危険物保安技術協会 土木審査部
(5) 地震による屋外タンク貯蔵所の被害について (1964年新潟地震から2024年能登半島沖を震源とする地震まで)	危険物保安技術協会 技術アドバイザー

7 申し込み手続き

当協会のホームページ (<https://www.khk-syoubou.or.jp/>) の「セミナー・講習会」から受講を希望されるものを選択し、お申し込み下さい。

原則として、各会場開催日の10日前までにお申し込みください。

8 個人情報の取り扱い

危険物保安技術協会は、取得した個人情報をお問い合わせの回答および講習会などの開催案内、その他これらの業務に附帯する業務のみに利用します。

連絡先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-3-13 ヒューリック神谷町ビル1階
危険物保安技術協会 研修事務局 宛
E-mail : kensyu@khk-syoubou.or.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報 (No.0617) 1ページ、機関誌「ほのお」2024年4号 (4/25発刊) 29ページを参照願います。

TEL : 03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当 : 企画課 児嶋

原稿データは、kikakeikaku@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL : 03-3234-1321 機関誌「ほのお」(消防ワイド) 担当 : 企画課 岡崎

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321「週間情報」担当：企画課 須藤

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。